

2025年度後期 開講学科別集計結果表

常葉大学

開講学科	看護学科	履修者数	976
------	------	------	-----

回答者数	168
------	-----

学年 マーク	回答者数／構成比 (%)				
	1年	2年	3年	4年	無効回答
	131	36	0	1	0
	78.0	21.4	0.0	0.6	0.0

No.	設問文	平均	回答者数／構成比 (%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			とても そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない		

▼全学部共通の質問項目

1	学修環境（プロジェクタ・音響・空調・照明・静粛性）は良好であった	4.49	93 55.4	65 38.7	10 6.0	0 0.0	0 0.0	168	0
2	クラスサイズ（受講者数）やグループサイズは適切であった	4.41	95 56.9	53 31.7	14 8.4	2 1.2	3 1.8	167	1
3	周りの学生の熱意が感じられた（熱心に授業に参加していた）	4.16	66 39.8	67 40.4	27 16.3	5 3.0	1 0.6	166	2

▼学部レベルの質問項目

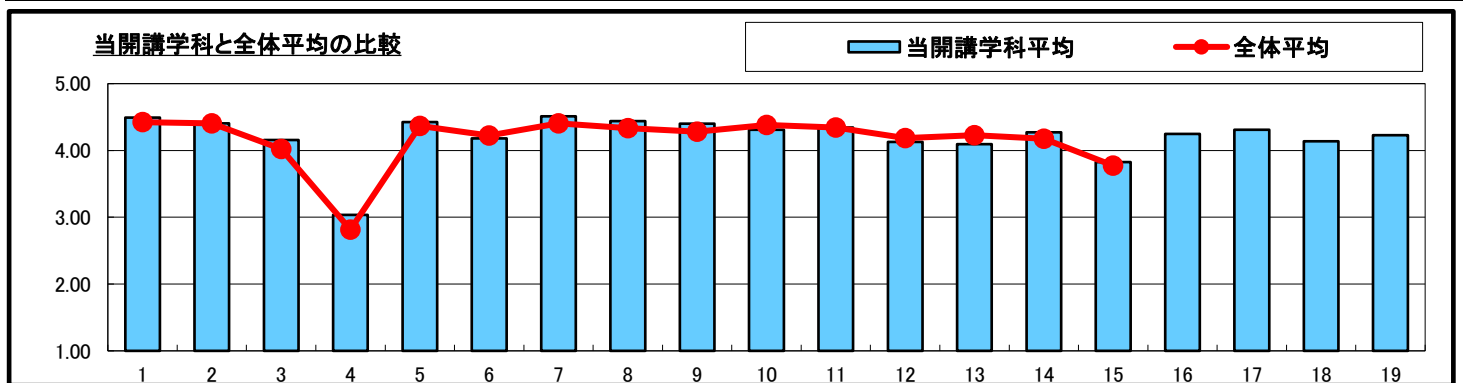
4	この授業に対する授業時間外学修にどの程度の時間を費やしましたか（1回の授業の前後）	3.04	2時間以上 28 16.8	1時間以上 2時間未満 34 20.4	30分以上 1時間未満 45 26.9	30分未満 36 21.6	全くして いない 24 14.4	167	1
5	シラバスに則した内容の授業が行われていた	4.43	88 52.7	64 38.3	13 7.8	2 1.2	0 0.0	167	1
6	この科目の難易度は適切であった	4.18	74 44.0	61 36.3	22 13.1	11 6.5	0 0.0	168	0
7	この科目は学部・学科の学びを深める上で有益であった	4.51	95 56.5	65 38.7	7 4.2	1 0.6	0 0.0	168	0
8	この科目は自らのキャリア形成や将来を考える上で役立った	4.44	92 54.8	62 36.9	11 6.5	2 1.2	1 0.6	168	0
9	【対面授業の場合】 この科目は対面で受講することが適切であった 【ポータルサイト等を活用した授業（オンライン授業）の場合】 この科目はオンラインで受講することが適切であった	4.40	98 58.7	49 29.3	12 7.2	5 3.0	3 1.8	167	1

▼教員個人レベルの質問項目

10	教員の話し方は明瞭で聴き取りやすかった	4.31	85 50.9	57 34.1	18 10.8	6 3.6	1 0.6	167	1
11	板書、スライド、配布資料などは適切であった	4.34	79 47.3	71 42.5	13 7.8	3 1.8	1 0.6	167	1
12	学生に質問や意見を求める、発表の機会を設けるなど授業への参加を促していた	4.13	70 42.2	59 35.5	28 16.9	6 3.6	3 1.8	166	2
13	学生の反応や理解を確認しながら授業を展開していた	4.10	67 40.1	59 35.3	32 19.2	8 4.8	1 0.6	167	1
14	必要に応じて学生の受講態度への注意を適切に行っていた	4.27	73 44.0	71 42.8	18 10.8	2 1.2	2 1.2	166	2
15	この授業のシラバスを読みましたか	3.83	十分に 読んだ 45 27.1	よく読んだ 69 41.6	どちらとも いえない 37 22.3	ほとんど 読まなかった 8 4.8	全く読んで いない 7 4.2	166	2

▼学科設問

16	自分から主体的に学びましたか	4.25	74 44.3	68 40.7	19 11.4	4 2.4	2 1.2	167	1
17	この科目に対して関心が高まりましたか	4.31	79 47.3	66 39.5	19 11.4	1 0.6	2 1.2	167	1
18	この科目の内容をDP（ディプロマポリシー）と関連づけて学ぶ事ができましたか	4.14	64 38.3	71 42.5	27 16.2	1 0.6	4 2.4	167	1
19	この科目の内容や到達状況を学年到達目標と関連付ける事ができましたか	4.23	69 41.3	75 44.9	18 10.8	2 1.2	3 1.8	167	1



2025 年度後期授業アンケート 学科別集計結果表に対する講評

学科／課程	看護学科
講評者	看護学科学科長 白石 葉子

設問	講評
設問 1～3 「全学部共通の質問項目」について	「学修環境（プロジェクタ・音響・空調・照明・静粛性）が良好であった」、「グループサイズ（受講者数）が適切であった」について、学生の約 9 割が「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答しており、看護学科教員の講義や演習環境の調整のもと、学生は学習に専念できる環境で取り組めたものと思われる。また、学生の 8 割が「周りの学生の熱意を感じられた」と回答しており、学生自身が講義に熱意をもって取り組んでいた様子が見える。
設問 4～9 「学部レベルの質問項目」について	看護学科の科目は、看護師の資格取得を目指す学生にとって「学びを深める上で有益」であり、「自らのキャリア形成や将来を考えるうえで役に立つ科目」であることは、ほとんどの学生が理解していると思われるが授業に対する授業時間外学修が、30 分未満の学生が 21.6%であり、全くしていない学生も 14.4%であった。授業時間外学修が 30 分未満の学生が昨年度よりも 9.4 ポイント増加している。学生が授業に興味関心を持ち、自主的に時間外学修に取り組めるような工夫が求められるとともに学生は授業時間外学修の取り組み状況を自分自身で学生生活の見直しを行うことが求められると思われる。
設問 10～15 「教員個人レベルの質問項目」について	「教員の話し方」や「スライド・配布資料など」に関して、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせて約 9 割であり、学生に分かり易い伝え方や教材の工夫が看護学科教員はできていたと考える。また、「学生への授業への参加の促し」「学生の反応の確認」「必要に応じた受講態度の注意」に関して、約 8 割が「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答しており、講義時の学生の反応を見ながら教員は授業を行っていたと考えられる。 一方で、シラバスの確認については 7 割が「確認して参加した」と回答したものの、3 割は確認せずに受講している。学生が授業前にシラバスを読む習慣を持てるような働きかけを行うとともにシラバスを確認せずに講義に参加している学生は、事前にシラバスを確認して参加することが習慣化するように取り組んで欲しいと思われる。

<p>設問 16～ 「学科設問」について（該当学科のみ）</p>	<p>回答を行った 8 割の学生が「自分から主体的に学び」、受講することで「科目に対して関心が高まっていた」とする結果であった。設問 15 のシラバスを読んで授業に出席した学生は 7 割にとどまっていた通り、依然として一定数の学生がシラバスを十分に活用できていない。「科目」と「DP」の関連付けや科目の到達状況を「学年到達目標」に関連付けて学ぶことに対して「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した学生は 8 割であり肯定的であった。このことから、「科目」と「DP」の関連付けが十分理解できないまま、授業に出席している学生が 2～3 割程度いると考える。</p> <p>学生がこれらをより理解できるように授業内で科目の目的・目標や DP における位置づけを明確にして説明することが教員に求められ、学生においても科目と DP の関係性を意識して講義、演習に取り組んで欲しいと思われる。</p>
--------------------------------------	--